

GPN News



グリーン購入ネットワークニュース
第98号 2015年8月



あなたのところは大丈夫？災害備蓄用品とグリーン購入 ～購入時の環境配慮と入れ替え時の賢い利用～

9月1日は「防災の日」。例年、全国各地で防災訓練や防災意識を高める行事が行われており、東日本大震災以降は災害発生時のための物品の備蓄をはじめ、日頃からの防災対策の重要性に対する認識が高まっています。

災害備蓄用品はグリーン購入法においても対象分野に含まれており、品目はペットボトル飲料水、食料（缶詰、アルファ化米、乾パン、レトルト食品、栄養調整食品等）、毛布、作業手袋、テント、ブルーシート、一次電池、非常用携帯燃料、携帯発電機など多岐にわたっています。

保存期間に制約がある飲料水と食料、一次電池、非常用携帯燃料の主な環境配慮点は、賞味期限や使用可能期間の長さや期限経過後の廃棄物排出抑制・負荷低減であり、期間の制約がない毛布等の資材については、素材等の環境配慮や使用後の回収・再使用・再生利用システムが求められています。さらに、多くの品目に関して、災害備蓄用品の保存期間を勘案した備蓄・購入計画の立案、備蓄量および購入量の適正管理、継続的な更新を行う仕組みの構築などに留意することとしています。

従業員が100名の場合、3日分の災害備蓄品は水900ℓ、主食900食、毛布100枚、その他物資（東京都帰宅困難者

対策条例の備蓄量の目安による）という量にのぼり、保存期限があるものについては期限前に入れ替えることになります。災害発生時に必要な量の災害備蓄用品を維持するとともに、環境負荷の低減を図るためには、「災害備蓄用品の一生」を考え、備蓄・購入計画から利用までの過程を想定した総合的な管理が必要です。適切な量の調達やストックの経年管理、保存期限前の利用などは、防災対策の充実と同時に環境負荷とコストの低減にもつながります。

東日本大震災後に購入した災害備蓄用品の中には、保存期限が近づいているものもあると考えられることから、今号では災害備蓄用品のグリーン購入やライフサイクルを視野に入れた管理・利用について考えたいと思います。

災害備蓄用品の一生を考える



index

災害備蓄用品とグリーン購入	1-3	Gなとりくみ	12
TOPインタビュー	4-5	GPN設立20周年記念フォーラム(予告)	13
電力のグリーン購入を考える	6-7	エコプロダクツ2015のお知らせ/GPN活動報告	13
GPNの活動より	8-9	「エコ商品ねっと」更新情報	14
TOPICS「オリンピックアジェンダ2020」	9	地域ネットワークだより	15
2014年度財務諸表(要約)	10	新規入会会員紹介	16
2015年度収支予算書(要約)	11	ひとこと地域ネットワークだより	16